

議会報告会 町に対する意見・要望（回答）

（平成29年3月21日から3月24日開催）

1 松栄団地周辺には野良猫が特に多く、環境が悪いので実態を把握して対処して欲しい。（建設水道課）

（回答）町では、公営住宅への新規入居申請時をはじめ、毎年度の収入申告手続きの際に、動物の飼育禁止について強く指導を行っております。

また、他の入居者等に迷惑をかけている実態を把握した場合には、現地に出向き注意、指導を行っております。

今後も、引き続きチラシを配布するなど入居者に対し、啓発を行ってまいります。

2 生ごみ用の袋は、弱く破れやすいので改善して欲しい。（環境政策課）

（回答）町指定の生ごみ袋は、堆肥化の際に、より分解速度の速い生分解性素材に変更した平成26年4月販売時より、多くの町民の皆様から「すぐに裂ける、破れる。」などのご指摘をいただいております、多大なご不便をおかけしておりましたことを、お詫び申し上げます。

町では、いただいたご指摘をもとに、これまでも袋の厚みの強化等、対策を講じてまいりましたが、本年4月より販売している生ごみ袋につきましては、さらに持ち手の形状に改良を加え、裂けづらい袋に変更しております。

今後も、町民皆様のご意見を賜りながら、より良い指定袋を作成してまいりたいと考えておりますので、ご意見・ご要望をいただきますようお願いいたします。

3 防災や災害時における全町的な町民への情報提供の方法（放送等）はどうなっているのか。広報車による巡回放送は、家の中にいるとほとんど聞こえない。（総務課）

（回答）災害発生時においては、広報車による巡回放送のほか、消防放送設備、町ホームページ、ツイッター、携帯電話やスマートフォンへのエリアメール、北海道防災情報システムによるテレビやラジオでの周知など、多様な手法により町民の皆様へ情報をお伝えしますので、ご理解をお願いいたします。

4 「知っておきたい町の予算」に平成25年度分には貸借対照表が掲載されていたが、平成26年度以降はなくなっているので掲載するべきである。またマイナスシーリングを行っているのなら、その内容を知らせて欲しい。(経営企画課)

(回答) 町の予算や決算の情報につきましては、①できるだけ多くの町民の皆様に関心を持ってもらえるような「要点を簡潔にまとめた情報」(主に町広報や町の予算書等による全戸配布や町ホームページでの公表)と、②①の情報より更に詳しく知りたい方向けの「資料的な情報」(主に町内公共施設での閲覧や町ホームページでの公表)の2本立てでお伝えできるように心がけております。

地方自治体における財務書類(貸借対照表など)の作成方法につきましては、これまでいくつかの作成基準モデルがあったところですが、平成27年1月付け総務大臣通知により統一的な基準が公表され、平成29年度までに同基準による財務書類を作成、公表するよう要請されています。

本町におきましては、統一的な基準に対応した財務書類を、平成28年度決算分より公表できるように準備を進めているところです。

決算に関する書類のため、公表時期につきましては10月から12月頃となり、資料的要素が強い情報のため、町内公共施設での閲覧や町ホームページでの公表を検討しております。

次に、マイナスシーリングについてですが、本町においては一般財源削減目標額(平成29年度予算においては約1千万円)を設定するほか、第6次総合計画に基づく事業、第4次行革プランによる削減目標等を踏まえて総合的に判断し、予算編成を行っております。

5 松栄団地内の駐車場は、マンホール周辺が下がっていたり、大きな水溜りができたりと舗装の状態がひどいので確認して改善して欲しい。施工方法に問題はないのか。(建設水道課)

(回答) 松栄団地内の駐車場につきましては、施工後に雨水桝周辺の地盤が下がって水溜りができておりましたので、舗装補修をして対応してきたところであります。

今後も、現地の状況を適宜確認し対応してまいります。

6 日出生活館の風呂は現在全く使用していないので撤去をして部屋のスペースを拡大して欲しい。(保健福祉課)

(回答) 風呂設備につきましては、以前は「生きがいデイサービス」事業で活用していた時期もありましたが、ご意見のとおり現在は使用されておられません。

生活館の施設整備につきましては、毎年地域からの要望をお聞きし、必要に応じて修繕対応してまいりました。

建設後、40年以上が経過し、耐用年数も経過している状況であり、耐震化を含め、建物自体の老朽化対策も必要であります。

今後、施設の利用実態の把握、また、地域としての今後の生活館の有効利用の考え方などについて、改めてご相談させていただき、方向性を示していきたいと考えております。

7 地域に住んで就農しようとする新規就農者に対する住居の確保の支援を考えて欲しい。(産業振興課)

(回答) 新規就農者への支援につきましては、研修期間中から就農後において、町農業振興公社や国などの各種就農支援を実施しております。

住宅確保にかかる支援につきましては、研修期間中は、農業研修生宿泊施設整備事業として、町職員住宅などを活用して宿泊場所の確保を図っております。

新規就農後の住宅確保につきましては、就農地となる農地のあっせんに併せ、住宅のあっせん・相談を行い、地域に居住できるよう総合的に支援を行っておりますが、住宅購入等に対する助成制度は設けておりません。

8 商業ベースに乗らない鹿肉加工施設の今後の在り方について、そろそろ判断をしなければならない時期にきているのではないか。(産業振興課)

(回答) エゾシカ食肉加工施設につきましては、平成25年4月より札幌市の株式会社アルデ balan に管理運営業務を委託しております。

エゾシカ処理の実績は、平成25年度45頭、平成26年度23頭、平成27年度25頭、平成28年度26頭であります。

昨年より、同社は、加工業者と提携し、エゾシカ肉を使った加工品の試験製造・販売を行い、町内イベントでの販売も始めているところではありますが、受入実績は横ばい状況にあります。

本施設の設置は、従来、捕獲後、廃棄されていた鹿肉を地域資源として有効活用することにより、農業被害に対する地域の理解を深めていただくことを目的としております。

今後においても、より有効活用が図られるよう、委託事業者や関係者と協議・検討を重ねてまいります。

9 ふるさと納税の返礼品は、栗山町特産品協議会を通して選定した方が栗山町全体のPRや収益に繋がるのではないかと。(経営企画課)

(回答) 本町では、ふるさと納税による寄附金をまちづくりに積極的に活用すべく、平成24年度より栗山町特産品推進協議会への加盟等を登録要件とした返礼品贈呈事業を開始いたしました。

しかし、全国的にふるさと納税が活発化する中、平成28年度から返礼品贈呈事業を公募制に移行し、返礼品の種類等の拡大を図ってまいりました。

その結果、平成28年度の寄附金額は2億円を超え(平成27年度は約1.3億円)、全国に栗山町のPRを推進しているところです。

なお、現在、栗山町特産品推進協議会の会員を含め25事業者(平成27年度は12事業者)が返礼品事業者として登録されております。

10 新規就農者の就農後の補助メニューはどのようなものがあるのか。(産業振興課)

(回答) 新規就農者の育成、支援につきましては、町農業振興公社が主体となり実施しており、農地の賃貸借や購入、機械や設備導入に係る費用の補助を行っております。

また、経営初期の経営安定支援策として、国の資金(農業次世代人材投資資金)の活用も行っております。

11 冬期間、駅前ロータリーの花壇に雪を山積みすることは見通しが悪く危険なので排雪をしっかりと欲しい。(建設水道課)

(回答) 駅前ロータリーの除排雪につきましては、管理者である北海道が実施しております。

ご意見のありました駅前ロータリー花壇の排雪につきまして、町の方から札幌建設管理部長沼出張所に要請いたします。

1 2 在宅介護を行っているので、病院の近くに公営住宅を建てる計画とはならないか。
(建設水道課)

(回答) 現在、国の認可を受けた公営住宅長寿命化計画 (H 2 3 ~ H 3 2) に基づき、各団地の耐用年数等を考慮しながら建替事業を進めております。

公営住宅の建替地については、既存公営住宅の近接地をはじめ、病院、学校、商店、公共施設から近く、比較的大きな敷地が確保できる場所を選定して決定しております。

今後も、高齢者から子育て世帯に至るまで、すべての人にとって利便性の高い住まいづくりを進めてまいります。

1 3 生ごみは単独で堆肥化施設で処理した方が良し、安上がりではないか。
(環境政策課)

(回答) 町では、平成 2 6 年 8 月に、ごみ処理方針を変更し広域組合に加入して、平成 3 6 年 4 月からごみの焼却処理を実施することといたしました。

焼却するごみは、現在の「炭にできるごみ」と「炭にできないごみ」の一部と合わせて「生ごみ」も「燃やせるごみ」として処理しようとするものであります。

生ごみを堆肥化せずに焼却処理する主な理由は、長年の間、桜山地域住民に悪臭による迷惑をかけてきたこと、堆肥化処理を継続する場合には、毎年多額の修繕費・維持管理が長期間発生することによるものであります。

また、生ごみを含めた焼却処理により、全体的なごみ処理経費の削減が図られること、さらに、現在の煩雑な分別方法が簡易化されることなどを総合的に判断した結果として、生ごみも焼却処理とするものであります。

なお、平成 3 5 年度末までは堆肥化処理を行いますので、ご理解をいただきたいと思えます。

1 4 特に冬期間の大規模な停電の際、その状況や復旧の見込みなど、町民に対する情報提供は町を含めてどのようになっているのか。3月22日に発生した停電の時は、約700戸であったが何の情報提供もなかった。(総務課)

(回答) 町内で停電が発生した場合には、北海道電力株式会社ホームページ「停電情報」のほか、北海道電力株式会社栗山営業所より停電状況の連絡があり、その情報を基

に町民皆様からの問い合わせに対応したり、町ホームページに掲載し広く情報提供を行っているところであります。

3月22日早朝に発生した停電につきましても、北海道電力株式会社栗山営業所より連絡が入り、町ホームページで周知したところですが、掲載が遅れたこともありましたので、今後はいち早く住民への情報提供を行ってまいります。

15 現在、新工業団地を含め工業団地には何区画の空きがあつて、誘致（進出）企業の見込みはどのようになっているのか。また、誘致活動をどのように行っているか、具体的に教えて欲しい。（ブランド推進課）

（回答）本町の工業団地につきましては、栗山工業団地、鳩山工業団地の2か所を整備し、平成28年度末現在において鳩山工業団地に1社、栗山工業団地については30社が進出しており、栗山工業団地は残り5区画29,881㎡を分譲中であります。

また、現在造成中の第4工業団地につきましては、分譲面積27,848.9㎡、7区画を整備し、平成30年度より分譲予定であります。

誘致活動につきましては、企業訪問活動や道内外の企業が参集するイベント等にも参加し、企業との情報交換などを通じて、本町の工業団地のPRに取り組んでおり、現在は数社から進出に係る照会と交渉を進めている状況であります。

16 観光協会の動きが全く見えてこない。機能していないのか。どんな活動を行っているのか教えて欲しい。（ブランド推進課）

（回答）栗山観光協会は、観光事業の健全な発達と産業の振興を図り、栗山町の発展に寄与することを目的に昭和48年に設立されております。観光行事の普及促進や郷土芸能の育成振興等の事業を行っており、発足当時から、くりやま夏まつりの開催に向けて郷土芸能の育成を図ることに注力し、現在も主要な事業として取り組んでいるところです。

また、カルチャープラザ及び駅前広場完成に伴い、交通機能の集約化、交流人口の増加、サービスの向上・充実を図る目的で平成12年より栗山駅前総合案内窓口事業がスタートし、観光協会がその事業を受託して、JR・各種バス券の販売、発着アナウンス、観光案内なども行っております。

町といたしましては、新たな観光組織体制の在り方について検討を進めており、今後の観光協会の在り方、役割についてもその中で検討してまいります。

17 町道栗山由仁線沿いの植栽を実施する際、地先（農地の耕作者）に事前の連絡や相談をして欲しかった。（植栽する位置によって農作業車の旋回に支障を来す場合があるので）今後は、事前に連絡して欲しい。（建設水道課）

（回答）町道栗山由仁線の植栽につきましては、農村景観地区の整備及び冬道の交通安全確保の防雪を目的として整備してきたところです。

今後につきましては、地権者及び耕作者への事前説明を十分に行い、事業を実施してまいります。

18 雨煙別川の河川敷地の立木は伐採してもらって助かったが、川の中に生えている木も除去して欲しい。（建設水道課）

（回答）雨煙別川につきましては、北海道が管理する河川であります。

ご意見がありました川の中に生えている木の除去について、町の方から札幌建設管理部長沼出張所に要請いたします。

19 降雨時に傾斜のある畑地から道路に土が流出し側溝や道路が埋まってしまう箇所があるので、根本的な対策を講じてもらいたい。（森、鳩山地区）（建設水道課）

（回答）傾斜地にある農地からの土の流出対策は、所有者自らが、降雨時に土のうを積むなどして、自己の圃場からの土の流出を防止していただくことが必要となります。

町といたしましても、農業者への周知を図るとともに、町道排水溝の清掃などを適宜実施し、町道の維持管理に努めてまいります。

20 旧継立中学校の跡地利用について一度動きがあったようだが、その後どのようなになっているのか教えて欲しい。（経営企画課）

（回答）平成28年10月の町広報誌及び町ホームページにおきまして、旧継立中学校活用事業者募集案内を行いました。

募集期間中に1事業者の応募があり、地域代表者と町職員で構成される「継立中学校跡地活用事業者選考委員会」において審査を行った結果、決定（採用）には至

りませんでした。なお、審査結果等につきましては、町ホームページに掲載しておりますのでご覧いただければと存じます。

平成29年度は公募内容の見直しも検討の上、早い時期に再度募集を行う予定であります。

21 栗山赤十字病院の耐震を盛り込んだ建替えはどうなっているのか。(保健福祉課)

(回答) これまで、栗山赤十字病院との間で栗山赤十字病院あり方検討会を設置し、今後の医療機能について検討を行い、平成24年3月に、「病院施設の耐久性や安全性、広域化・連携なども踏まえ、整備のあり方について検討する必要がある。」と報告されました。

町といたしましては、町民が安心して医療を受けることができる体制を確保するため、平成28年6月に「栗山町の医療環境整備を検討する町民委員会」を設置し、医療環境の整備充実や地域医療体制等について協議を行っており、栗山赤十字病院の現状・課題についても議論しているところであります。

本町及び南空知南部地域における中核的役割を安定的かつ継続的に果たしていただくため、引き続き栗山赤十字病院と協議を重ねてまいります。